**付録A　行動頻度記録データシート**

**行動：**

**行動の定義：**

**日付：**

**観察者：**

**観察開始時刻：**

**観察終了時刻：**

|  |
| --- |
| 行動の総数： |

行動の生起率（該当する場合）：　　　　　　／

**日付：**

**観察者：**

**観察開始時刻：**

**観察終了時刻：**

|  |
| --- |
| 行動の総数： |

行動の生起率（該当する場合）：　　　　　　／

**日付：**

**観察者：**

**観察開始時刻：**

**観察終了時刻：**

|  |
| --- |
| 行動の総数： |

行動の生起率（該当する場合）：　　　　　　／

**日付：**

**観察者：**

**観察開始時刻：**

**観察終了時刻：**

|  |
| --- |
| 行動の総数： |

行動の生起率（該当する場合）：　　　　　　／

**付録B　行動持続時間データシート**

**行動：**

**行動の定義：**

行動が生起するたびに、以下のスペースに持続時間を記録します。行動が20回以上生起する場合は、2枚目のデータシートを使用してください。

**日付：**

**観察者：**

**観察開始時刻：**

**観察終了時刻：**

持続時間１：

持続時間２：

持続時間３：

持続時間４：

持続時間５：

持続時間６：

持続時間７：

持続時間８：

持続時間９：

持続時間10：

持続時間11：

持続時間12：

持続時間13：

持続時間14：

持続時間15：

持続時間16：

持続時間17：

持続時間18：

持続時間19：

持続時間20：

**平均または合計（どちらか○で囲む）持続時間：**

（平均持続時間を計算するには、すべての持続時間を合計し、行動の生起数で割る。合計持続時間を計算するには、すべての持続時間を合計する。）

**付録C　行動潜時データシート**

**行動：**

**行動の定義：**

**日付：**

**観察者：**

**観察開始時刻：**

**観察終了時刻：**

|  |  |
| --- | --- |
| 活動や刺激は何だったか？ | 行動の潜時 |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |
|  |  |

**平均または合計（どちらか○で囲む）潜時：**

（平均潜時を計算するには、すべての潜時を合計し、行動の生起数で割る。合計潜時を計算するには、すべての潜時を合計する。）

**付録D　行動強度測定用データシート**

**行動：**

**行動の定義：**

**日付：**

**観察者：**

**観察開始時刻：**

**観察終了時刻：**

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| **強度レベル**  この行動の強度レベルを記入する | **頻度**  この強度レベルで行動が生起するたびに、枠内に「正」の字を記入する | **合計**  レベル毎に「正」の字を付け、ここに合計を記入する | **割合**  合計を観察された時間で割る |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |
|  |  |  |  |

**付録E　タイム・サンプル・データシート**

**行動：**

**行動の定義：**

**日付：**

**観察者：**

**観察開始時刻：**

**観察終了時刻：**

**観察インターバルの長さ：**

**使用しているデータ収集手順を○で囲む：**

部分インターバル　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　瞬間タイム・サンプリング

|  |  |
| --- | --- |
| インターバル番号  （必要に応じて、インターバル番号の横に実際の回数を記入する） | 行動の生起は...  ...部分インターバルの場合は１回でも  ...瞬間タイム・サンプリングの場合、インターバルの終わりに |
| 1 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 2 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 3 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 4 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 5 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 6 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 7 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 8 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 9 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 10 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 11 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 12 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 13 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 14 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 15 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 16 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |
| 17 | Yes　　　　　　　　　　　　　No |

（観察ごとにインターバル数が17を超える場合は、データシートを追加する。）

**”Yes”の合計数:**

**（該当する場合）行動が生起したインターバルの割合：**

（「Yesの合計数」を「Yesの合計数」+「Noの合計数」で割った数に100を掛けた％）

**付録F** **永続的所産データシート**

**行動：**

**行動の定義：**

**測定された所産:**

日付：

観察者：

観察開始時刻：

観察終了時刻：

カウント合計数:

行動の割合(適用可能なら):　　　　　　　　／（分，時間）

日付：

観察者：

観察開始時刻：

観察終了時刻：

カウント合計数:

行動の割合(適用可能なら):　　　　　　　　／（分，時間）

日付：

観察者：

観察開始時刻：

観察終了時刻：

カウント合計数:

行動の割合(適用可能なら):　　　　　　　　／（分，時間）

日付：

観察者：

観察開始時刻：

観察終了時刻：

カウント合計数:

行動の割合(適用可能なら):　　　　　　　　／（分，時間）

**付録G　 A-B-C データシート**

**行動：**

**行動の定義：**

**日付：**

**観察者：**

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| **セッティング** | **活動** | **先行事象** | **結果事象** | **考えられる機能** |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |

考えられる機能l:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 生起総数：

考えられる機能２:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 生起総数：

考えられる機能３:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 生起総数：

考えられる機能４:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 生起総数：

考えられる機能５:　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　 生起総数：

**付録H　記述分析データシート**

**行動：**

**行動の定義：**

**日付：**

**観察者：**

**共同観察者：**

行動の事例ごとに、どの条件が設定されているかを示す文字を○で囲む。以下のコードを使用する。

D = 要求　　　L = 低注意　　　R = アクセス制限　　　　A = 単独

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| 行動の事例 | 条件設定 | | | | 適用可能なら、強度や持続時間を記入する |
| 1 | D | L | R | A |  |
| 2 | D | L | R | A |  |
| 3 | D | L | R | A |  |
| 4 | D | L | R | A |  |
| 5 | D | L | R | A |  |
| 6 | D | L | R | A |  |
| 7 | D | L | R | A |  |
| 8 | D | L | R | A |  |
| 9 | D | L | R | A |  |
| 10 | D | L | R | A |  |
| 11 | D | L | R | A |  |
| 12 | D | L | R | A |  |
| 13 | D | L | R | A |  |
| 14 | D | L | R | A |  |
| 15 | D | L | R | A |  |
| 16 | D | L | R | A |  |
| 17 | D | L | R | A |  |
| 18 | D | L | R | A |  |
| 19 | D | L | R | A |  |
| 20 | D | L | R | A |  |
| 頻度の合計 |  |  |  |  |  |
| 頻度,持続時間,強度の平均 |  |  |  |  |  |

注：インターバル・データの場合は、そのデータシートをこのデータシートと組み合わせて使用してください。

**付録I　同意書**

保護者様

［　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　］のスタッフは、お子様の問題提起行動に効果的に対処する方法について詳しく知りたいと思っています。その行動に寄与する要因を決定するために機能アセスメントを実施する必要があるようです。その行動を維持する要因を評価するために、記述分析または機能分析、あるいは両方などのアセスメント方法を使用することがあり、私たちが提案する手順とすべての関連情報を添付します。この支援は体系的な実施を必要とする特別なものであるため、進める前にインフォームド・コンセント（同意書）が必要です。

機能アセスメント手順に関する添付資料を確認してください。アセスメントの実施について質問や留保されたいことがございましたら、直接お問い合わせください。問題提起行動、その生起に寄与する要因、および私たちがどのように支援する予定であるかについて、十分にご理解なさってください。このプログラムに不安がおありなら、この書類に署名しないでください。 お子様の先生や支援員と代替案について話し合われることをお勧めします。あなたからの許可が得られるまでは進めません。

このアセスメント手順の実施に同意された後でも、アセスメントを終わらせたいと思われた場合は、お知らせいただければ、私たちはあなたの要求に応じます。同意書の使用は非常に堅苦しいと思われるかもしれませんが、この書面によるコミュニケーションによって、お子様に関係するすべての人がアセスメント手順とその使用理由を確実に理解できるようにすることが目的です。

添付の資料をお読みの上、記載されているアセスメントの実施に同意される場合は、プログラム・シートの署名欄にご署名ください。

**機能アセスメント手順の概要**

発達障害のある人は、しばしば重大な問題提起行動を呈します。そのような問題提起行動には、攻撃行動、自傷行為、器物破壊、および自己刺激行動などがありますが、それだけではありません。問題提起行動の治療を成功させる上で、正確なアセスメントは重要です。本人は、いろいろな理由で問題提起行動を取ります。すなわち、（スタッフまたは仲間からの）注意注目を得るため、好きな物事へアクセスするため、または要求される状況（例えば課題）から逃れるためなどです。場合によっては、本人は、反応自体が生み出す結果（すなわち自己刺激）を得るために問題提起行動を取ることもあります。

問題提起行動を維持している要因を正確に評価するために、一連の機能アセスメント手順を使うことになります。それには、親または教師へのインタビュー、記述分析、および機能分析があります。

**インタビュー：**インタビューは、本人に関する詳細情報をすみやかに入手するのに役立ちます。また、問題提起行動を引き起こす先行事象（または「引き金」）に関する貴重な情報をスタッフに提供します。さらに、インタビューから、問題提起行動の結果（つまり、人々がそれにどのように反応するか）に関する情報を得ることができます。情報が常に信頼できるとは限らず（つまり、別々の回答者が同じ行動について別々の解釈をする可能性がある）、バイアスがかかる（つまり、回答者が、問題提起行動は、最近教室で実際に生じた行動よりも悪い/良いと言うかもしれない）かもしれないので、行動プログラムの開発のために、インタビューだけを用いるということはめったにありません。

**記述分析**：記述分析は、本人を観察し、問題提起行動に寄与しうる要因を評価するための有用な手段です。記述分析では、たいてい本人の自然環境（すなわち、学校、家庭）で観察します。問題提起行動の直前の事象（つまり、先行事象）と直後の事象（結果）についてデータを収集します。スタッフは、記述分析により、問題提起行動を維持している要因に関する客観的なデータを収集することができます。普段の状況で問題提起行動をアセスメントし、客観的なデータに基づいて決定を下す機会は、スタッフが問題提起行動に関して効果的な決定を下すのに役立ちます。記述分析を使用する際の主な欠点は、評価においてコントロールできる量が限られていることです。したがって、考えられる原因に関する仮説しか立てることができません。

**機能分析**：機能分析は、問題提起行動が生起する可能性が高い、および低い環境状況を特定するために使用する手順です。記述分析と同様に、機能分析も問題提起行動を維持している先行事象と結果事象を評価します。記述分析とは異なり、機能分析では、環境に体系的な変更を加えて、問題提起行動に対するさまざまな条件の影響を評価します。

機能分析では、本人は、問題提起行動を引き起こすかもしれない状況と、引き起こさないかもしれない状況とにさらされます。これらの状況としては、課題を出されたり要求されたりする状況、人からの注意注目が一時的に差し控えられる状況（1〜10分間）、好きな物事が一時的に差し控えられる状況（1〜10分間）、および自由に遊べる状況があります。機能分析の際のコントロールの程度を考えると、スタッフは問題提起行動を強化し維持している結果事象を正確かつ確実に特定できます。さらに、機能分析は、アセスメントと治療との間を直接かつ即時にリンクさせます。適応的な代替スキル（たとえば、音声や手話を使用して欲求やニーズを伝える）は、機能分析という状況で簡単に教えて評価することができます。機能分析は非常に便利ですが、多くの労力と時間がかかることがあります。

私/私たちは、私たちの子どものための機能アセスメントの実施に関する上記の説明を読み、説明のようにアセスメントを行うことに同意します。

署名（親または保護者）/日付

署名（親または保護者）/日付

**付録J　AB機能分析データシート**

|  |  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- | --- |
| **時間（分）** | **注意あり** | **注意なし** | **好きなモノや活動へのアクセスあり** | **好きなモノや活動へのアクセスなし** | **課題あり** | **課題なし** |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |
|  |  |  |  |  |  |  |

**付録K　先行操作データシート**

**行動：**

**行動の定義：**

**日付：**

**セッションの長さ:**

**観察者：**

**共同観察者:**

**ここに各条件を定義せよ：**

１）

2)

3)

4)

5)

6)

|  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- |
| 条件 | セッション1合計 | セッション２合計 | セッション３合計 | 総合計 |
| １） |  |  |  |  |
| ２） |  |  |  |  |
| ３） |  |  |  |  |
| ４） |  |  |  |  |
| ５） |  |  |  |  |
| ６） |  |  |  |  |
| 各セッションで最も標的となる行動を引き出した条件はどれか？ |  |  |  |  |

**付録L　機能分析データシート**

|  |  |  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- | --- | --- |
|  | **シリーズ１** | **シリーズ２** | **シリーズ３** | **シリーズ４** | **シリーズ５** |
| **注意** |  |  |  |  |  |
| **具体物** |  |  |  |  |  |
| **要求** |  |  |  |  |  |
| **単独** |  |  |  |  |  |
| **遊び** |  |  |  |  |  |

（グラスバーグ＆ラルー著「自閉症の人の機能的行動アセスメント(FBA)」（明石書店）より）